２　事業の概要と成果	
（１） プロジェクト目標の達成度 （今期事業達成目標）	【上位目標の達成】 バングラデシュ国クルナ管区のシュンドルボン(The Sundarbans)周辺の零細農村生産者は、農畜林水産部門の 6 次産業化による付加価値のある商品・加工技術の開発、マーケティングの開拓やエコ・グリーンツーリズムの実施により、世帯当たりの平均現金収入は事業実施前と比べると漁師、農業・畜産、非木材林産物生産の各グループではそれぞれ 50%増加、エコ・グリーンツーリズムは 10 倍以上増加させることができたことから、農村生産者の主体による持続的な生計向上に寄与することができた。 【今期事業達成目標の成果】 バニシャンタ行政村の直接受益者である農畜林水産者(265 世帯)、11 の小学校(教師 34 人、生徒 1,583 人、保護者 3,166 人)を対象とし、地域の自然資源を有効且つ適切に利用・保全しながら 6 次産業化の促進による生計向上の達成を目指した。その結果、バングラデシュ全国において商品を販売する 22～30 店舗の開拓(商品によって異なる)や 10 万人以上に渡る人たちへのプロモーションにより、各グループの生計(世帯当たりの平均現金収入)は事業実施前よりも増加し、下記の通り生計向上に寄与することができた。 ・ 漁師グループ: 事業実施前 4,800 タカ→3 年次事業終了後 7,400 タカ(50%増加) ・ 農業・畜産グループ: 事業実施前 3,500 タカ→3 年次事業終了後 5,500 タカ(50%増加)。 ・ 非木材林産物生産グループ: 事業実施前 3,000 タカ→3 年次事業終了後 4,800 タカ(50%増加)。 ・ エコ・グリーンツーリズムグループ: 事業実施前 3,000 タカ→3 年次事業終了後 31,150 タカ(10 倍以上増加)。
（２）活動内容	**1. <u>農村生産者協同組合の組織運営・基盤の定着</u>** ① 農村生産者協同組合の施設維持管理を円滑に実施していくための委員会を設置した(委員 7 人選出)。 ② 2022 年 3 月 12 日(1 日間)、農村生産者協同組合の組合員同士によるワークショップを開催した。 ③ 2022 年 3 月 15 日～19 日の 5 日間に渡り、農村生産者協同組合の施設維持管理を円滑に実施していくための研修会を開催した。 ④ 商品の品質を維持管理していくための製品品質管理委員会を設置した(委員 7 人選出)。 ⑤ 2022 年 3 月 23 日～27 日の 5 日間に渡り、商品の品質を維持管理していくための研修会を開催した。 ⑥ 2 年次に作成した商品販売計画の見直しを行った。 ⑦ 各グループにおける生計向上の現状と課題に関する確認調査は、月ごとに把握して進めた。 ⑧ 専門家による事業の直接受益者を対象としたインパクト・アセスメントを行った。 ⑨ 本事業成果をまとめた小冊子の作成(2,000 部)を配布し、受益者や事業の関係者に配布した。 ⑩ 行政・関連機関への事業成果報告書の提出を行った。 ⑪ 農畜林水産物をオンラインで販売するためのアプリケーション(スマートフォンでも購入することが対可能なアプリ)は、専門家と協力しながら開発した。https://play.google.com/store/apps/details?id=me.utsargo.banojibi ⑫ 3 年間の事業成果の共有を図るためのフォーラム開催し、2000 人程の農村生産者が参加した。 ⑬ 毎月、組合員より 80 タカ(100 円程度)/月/世帯を集め、農村生産者協同組合が管理を継続した。 ⑭ 組合員の定例会議を毎月実施した。

	2. <u>適切な生産技術の習得や商品開発・サービスを行うための技能定着と商品の販売拡大</u> (1) 漁師グループ ① 2022 年 4 月 23 日～29 日の 7 日間に渡り、10 人を対象として商品の品質向上研修会を開催した。 ② 2022 年 5 月 7 日、8 日の 2 日間に渡り、10 人を対象として商品のパッケージングやマーケティングに関する研修会を開催した。 ③ オンラインマーケティンググループ(5 人)を選抜した。 ④ 2022 年 4 月 27 日、28 日の 2 日間に渡り、オンラインマーケティンググループを対象とした研修会を開催した。 ⑤ 漁業をテーマとした商品のプロモーションビデオは、専門家の指導の下、開発した。https://www.banojibi.com/ ⑥ SNS、青空市や展示会等を通じた商品のプロモーションキャンペーンは、100,934 人程を対象に実施した。 ⑦ バングラデシュ国内において、販売店 30 店舗を開設した。 ⑧ 販売店舗でのモニタリング、販売店オーナーや購入者からの商品に関する意見集約を行った。 ⑨ カニを養殖するためのケージ(かご)の購入と魚の餌を購入した。 (2) 農業・畜産グループ ① 2022 年 5 月 16 日～22 日の 7 日間に渡り、12 人を対象として商品の品質向上研修会を開催した。 ② 2022 年 6 月 20 日、21 日の 2 日間に渡り、12 人を対象として商品のパッケージングやマーケティングに関する研修会を開催した。 ③ オンラインマーケティンググループ(5 人)を選抜した。 ④ 2022 年 6 月 20 日、21 日の 2 日間に渡り、オンラインマーケティンググループを対象とした研修会を開催した。 ⑤ 農産物をテーマとした商品のプロモーションビデオは、専門家の指導の下、開発した。https://www.banojibi.com/ ⑥ SNS、青空市や展示会等を通じた商品のプロモーションキャンペーンは、100,934 人程を対象に実施した。 ⑦ バングラデシュ国内で、販売店 28 店舗を開設した。 ⑧ 販売店舗でのモニタリング、販売店オーナーや購入者からの商品に関する意見集約を行った。 ⑨ 羊と牛の家畜小屋建設、羊と牛の購入、羊と牛の飼料購入を行った。 (3) 非木材林産物生産グループ ① 2022 年 6 月 24 日～30 日の 7 日間に渡り、10 人を対象として商品の品質向上研修会を開催した。 ② 2022 年 6 月 15 日、16 日の 2 日間に渡り、10 人を対象として商品のパッケージングやマーケティングに関する研修会を開催した。 ③ オンラインマーケティンググループ(5 人)を選抜した。 ④ 2022 年 7 月 1 日、2 日の 2 日間に渡り、オンラインマーケティンググループを対象とした研修会を開催した。 ⑤ 非木材林産物商品をテーマとした商品のプロモーションビデオは、専門家の指導の下、開発した。https://www.banojibi.com/ ⑥ SNS、青空市や展示会等を通じた商品のプロモーションキャンペーンは、100,934 人程を対象に実施した。 ⑦ バングラデシュ国内で、販売店 22 店舗を開設した。 ⑧ 販売店舗でのモニタリング、販売店オーナーや購入者からの商品に関する意見集約を行った。

	⑨ ピクルス商品資材(ピクルスをつくるための香辛料とボトル)を購入した。 (4) エコ・グリーンツーリズム実施グループ ① グループ・団体での滞在が可能な宿泊施設の建設(男性 10 人、女性 10 人の収容)を行った。 ② エコツーリズムのプログラム等品質向上のための研修会を開催した(35 人参加、3 日間×3 グループ) ③ オンラインマーケティンググループ(5 人)を選抜した。 ④ オンラインマーケティンググループを対象とした研修会(2 日間)を開催した。 ⑤ エコ・グリーンツーリズムを紹介するためのプロモーションビデオは、専門家の指導の下、開発した。https://www.banojibi.com/ ⑥ エコ・グリーンツーリズムの実施を拡大し、毎月、平均して 7 組・団体のお客を受け入れてきた。 ⑦ エコ・グリーンツーリズムのプロモーション活動を行政、民間企業、ホテル等を対象として実施した。 ⑧ 観光客のツアー内容に関する意見集約は、受け入れの際に行った。 ⑨ 自然体験型のキャンププログラムを実施した。 (5) 政府等が主催するフェアへの出店 これまで政府が主催する農業展覧会や青空市等に 5 回(計約 10,000 人参加)へ出展し、開発した農畜林産物に関する商品の展示、販売の実施と住民からの意見を収集した。 **3. シュンドルボン沿岸流域を中心とした住民参加型の植林と環境教育の実施** ① マングローブ 20,000 本の苗木の植林を行った。 ② 果樹・薬木等 5,000 本の苗木の植林(デイツ:1,500 本、グアバ: 500 本、マンゴー:300 本、ココナッツ:200 本、ナッツ<Betelnut>:500 本、コロイ<Koroi>: 500 本、アラビアゴムモドキ<Babla>:: 300 本、モリンガ:500 本、ニーン<Neem>: 500 本、ユカン<Emblica>: 200 本)を行った。 ③ 小学校 11 校と農村生産者協同組合メンバーを対象とした環境教育を行った。
（3）達成された成果	**1. 農村生産者協同組合の組織運営・基盤の定着** ・ 農村生産者協同組合の組織、施設の維持管理に関する計画策定やそれらを運営する組合員の能力向上により、持続的な組織・施設の維持管理へ向けた基盤の確立とその強化を図ることができた。 ・ 農村生産者協同組合を持続的に運営するため、各組合員(265 世帯)から 80 タカを定期的に集め、事業終了後の組織運営面での資金を貯蓄することができた。 ・ SDGs 目標の達成では、目標 5 (5.5, 5.c)、目標 8 (8.5, 8.9)や目標 17 (17.16,17.17)に貢献することができた。 **2. 適切な生産技術の習得や商品開発・サービスを行うための技能定着と商品の販売拡大** ・ バングラデシュ全国において商品を販売する 22～30 店舗の開拓(商品によって異なる)や 10 万人以上に渡る人たちへのプロモーションにより、各グループの生計(世帯当たりの平均現金収入)は事業実施前よりも増加し、生計向上に寄与することができた。 ・ 漁師グループ: 事業実施前 4,800 タカ→3 年次事業終了後 7,400 タカ (50%増加)

	・ 農業・畜産グループ: 事業実施前 3,500 タカ→3 年次事業終了後 5,500 タカ(50%増加)。 ・ 非木材林産物生産グループ: 事業実施前 3,000 タカ→3 年次事業終了後 4,800 タカ(50%増加)。 ・ エコ・グリーンツーリズムグループ: 事業実施前 3,000 タカ→3 年次事業終了後 31,150 タカ(10 倍以上増加)。 ・ SDGs 目標の達成では、目標 1 (1.2, 1.b)、目標 2 (2.3)、目標 5 (5.5, 5.c)、目標 8 (8.5, 8.9)、目標 12 (12.8, 12.b)、目標 14 (14.2, 14.b)、目標 15 (15.1,15.2)や目標 17 (17.16,17.17)に貢献することができた。 **3. <u>シュンドルボン沿岸流域を中心とした住民参加型の植林と環境教育の実施</u>** ・ 協同組合員、11 の小学校の直接受益者を対象に植林活動(マングローブ: 20,000 本、果樹・薬木:5,000 本)とその環境教育を行い、バニシャンタ行政村周辺の農地、樹木や漁場等の里山・里海の保全・再生およびシュンドルボン沿岸流域の森林保全を進めることができた。 ・ SDGs 目標の達成では、目標 14 (14.2, 14.b)、目標 15 (15.1,15.2)や目標 17 (17.16,17.17)に貢献することができた。
（４） 持続発展性	(1) <u>農畜林水産業の 6 次産業化の能力開発・ネットワーク強化を通じた貧困削減への寄与</u> ① 本事業では、農村生産者協同組合、行政、企業(食品加工・旅行会社)、大学、学校、NGO 等の関係者を巻込んで実施してきた。その経験を活かし。シュンドルボン地域全体の農畜林水産物やその商品の販売を効果的且つ持続的に進めるための包摂的なネットワークの形成・強化へとつなげていく。 ② 農畜林水産の 6 次産業化による生産技術、商品開発、加工技術やマーケティングに関する技能向上によって農畜林水産の 6 次産業化を波及させていくためのモデルケースの創出を図ることができた。これまでの経験や教訓を活かし、様々な関係者との連携・協働を通じて同地域または他地域への拡大を図っていくことで、当該地域住民の包摂的な経済・社会の発展および貧困の緩和へ寄与していく。 (2) <u>施設の維持管理(第 1 年次～第 3 年次事業)</u> ① 建設された組合の事務所は、農村生産者協同組合が、毎月、組合員から徴収した運営費や農畜林水産物の販売による収益の一部を導入することによって事務所の維持管理を行う。 ② エコ・グリーンツーリズムの観光客を対象とした宿泊施設については、事業終了後、農村生産者協同組合や村が維持管理を行う。 ③ 車両、その他の機材についても農村生産者協同組合が維持管理を行う。 (3) <u>地域の持続的な自然環境保全活動</u> 組合員や小学校を中心とした教師、生徒、保護者が植林及びその環境教育を継続していくことで、シュンドルボン沿岸流域の自然環境が保全され、持続可能な農畜林水産業へ貢献していく。 上記(1)～(3)においては、現地の NGO が中心となって定期的にフォローアップを行うと共に、事業成果の一層の波及に努める。